

友情に感謝 剛 せぬま レッツゴー通信

平成31年4月 当時世界で最も礼儀の進んだ国日本。江戸しぐさ今に伝わる。



がん医療の治療新時代

昨年何人も知り合いが帰らぬ人となり、悲しい別れとなった、がんの方もいた、がんは昭和五十六年死因の第一位となり、最近では二人に一人がかかり、三人に一人が死亡する病気とされる。しかしがん医療の急速な進歩で五年以上の生存率は約六割ある。亡くなった四割のうち二割の人は、早期発見している。ば治っていたと言われている。だから、検診の必要性に改めて感じる次第であるが、がん検診の受診率は現在五〇%前後といわれているので受診率を七〇%に上げるよう、足立区は言っている、国も「第三期がん対策基本計画」を発表「患者本位のがん医療の実現や尊厳を持つて安心して暮らせる社会の構築と

風疹対応も早くから指摘してきた
歯科検診制度も提案した
足立のがん検診受診一〇〇%目指そう

本庶佑氏ノーベル賞

京都大学高等研究院特別教授である本庶佑の受賞により、有名になったのが、オプジーポなどの免疫チェックポイント阻害剤だ、難しい理論でせぬままでは正確に伝えられないが、これまでの免疫療法では、免疫機能の攻撃力を高める方法が中心で抗がん剤もその一種であらう、しかし、最近がん細胞が免疫の働きにブレーキをかけて、免疫細胞の攻撃を阻止していることが分かってきた、そこでがん細胞によるブレーキを解除することで、免疫細胞の働きを再び活発にして、がん細胞を攻撃出来るようにする薬が免疫チェックポイント阻害剤です。この新しい治療薬の研究が進んでいるのです。

がん予防への期待

早期発見、遺伝子特性の研究放射線や免疫各種療法の組み合わせで、がん予防確立を願う。

異議あり改正水道法

自治体の水道事業の基盤強化を目的とした改正水道法が二月六日衆院本会議で可決された。自治体が所有する水道の運営権を民間企業に売却することと可能とする内容だ。赤字の水道事業体は約3割もあるというが、水は国民の命のもとだ！単に民間に売却すれば良いとはいえない。もし民間に売る事を考えている自治体が有るならば、目先の利益だけでなく、都民・市民に勝手に料金を高く決められたり、災害対応に手を抜かれぬような、国民本位の取組みが必要なのは、言うまでもない。しかし考えてみると自治体が赤字で悩む事業を買って引き受ける会社はあるのだろうか、政府は責任を持つてこの法に取り組むべきだ。

区民生活政務調査依頼 足立区政でお気付の事、町の中のこと、学校のこと

せぬま 剛へご意見をどうぞ、足立区へ提案します

氏名

住所

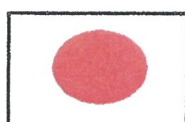
ご記入の上

足立区政務事務所
せぬま 剛

090-4073-5145

足立区千住宮元町10-1

せぬま剛



祝日には国旗を掲げよう

国旗販布・取付お申込はせぬま 剛へ

ごくありふれた日常のなかに、
さりげなく、ひっそりと、
幸福はかくれています。やなせたかし

春まだ遠し

憲法改正して、自分の国を自分の手で造ってゆこうという気運が高まりつつありますが、戦後教育を受けてきた我々世代には、日本という国は悪い国、軍国主義の国だったと思い込まされ、そこから抜け出せない国民が多勢いるのです。

事実と現実

列強の属国とならない為に、明治維新を成し、富国強兵の道を進んだ日本、それが世界の恐威となり、策略により、開戦し、敗戦した日本、賢命な日本人は、国際社会の中で生き残り繁栄を続ける道を考えつつ、全ゆる努力をしています。絶対軍国主義等は許しません。日本という国を誇りある国へ、総力挙げて皆で造りましょう。

予備自衛官に採用されますと

教育訓練があります

一般公募の方は三年以内に五十日間四〇〇時間の訓練を行います。内容は基本教練―戦闘訓練―野外勤務等行い実弾射撃訓練をしっかりと行います。技能公募の方は二年以内で十日間八十時間の訓練となっています。

基本教練―野外―武器―職務訓練等を行います。いづれも国防意識向上されます。

身近な問い合せ先

自衛隊足立募集事務所

足立区千住中居町二―三三三三八七九八八九二〇

千住二丁目交差点近く、丸昌トナリです。

せぬまに聞いたと言つて、お気楽に立寄つて現職の自衛官の雰囲気を感じて下さい。

足立区出身新規採用者励ます

足立区は、鈴木恒年区長の時に

せぬまが提案自衛隊募集の記事を区広報に掲載して広く区民に知らせることとした。

そして新規に採用された足立区出身を、区長室隣の特別室で励ます会を行うこととして、せぬまも当初は立会っていたのです。

彼ら彼女らが誇りをもって任務につけるよう、区民の皆さんもお励まし下さい。

憲法で確認したい自衛隊

国民に支持される自衛隊を、共産党は憲法違反という。憲法に明記すべき。

野球は楽しい会員募集

柳原の商店主や工場主や職人さん達が集まり四十年前発足した。柳原野球リーグ連盟、五チームが参加するリーグ戦です。

年間四月〜十月までの総当り、日曜日朝六時半頃から集合します。会場は堀切橋南側の球場二面です。

ダンディーズ 田村信隆 TEL三八八二一七〇四三

柳原二一五四一九

ブレーブス 遠藤 実 TEL三八七〇一七八九八

千住東二一三二二二二〇三

スパークス 橋本正幸 TEL三八七〇一五六四三

柳原二一三二一七

名球会 山田恒雄 TEL三八八一八七九六

柳原

マスターズ 高山光男 TEL三八八八二五六二

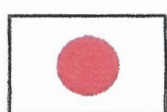
柳原二一四〇一六

一月二十二日 竹島の日

島根県はこの日を先祖代々受継いできた。記念の日として、竹島の日と定めました。日韓協定を守り日本は何の手出しもせぬうちに韓国は実効支配している。日本人が先祖代々守ってきた島も、政治がいかにげんだと国際社会にナメられる良い見本となった。

領土とは

自国民を守るとりである。日本はこの意識が低く、今、日本中が売出されている。国家が危機的状態になっている。国土法を整備し直すべき時です。



祝日には国旗を掲げよう 電写3881-0528

国旗販布・取付お申込はせぬま 剛へ

足立区の「子ども」表示をやめさせよ。

足立区は子供を「子ども」と書く、いつのまにやら悪しき風潮に乗り、「子ども」となつてしまつて、今も直そうとしない。

その理由は公用として通用しているからだと言うが、齒切れが悪い。

かつて「子ども」としたのは、供はおともで、大人のおともでは無いという論を羽仁説子と言つたあきれた発言を、日教組が利用し、人権に便乗したおそまつな説だ。そもそも、おともは、お伴であり、供とは、神へのお供え、先祖供養等の尊い意であり、「子供」とは古来不変の美しい大和言葉であるのだ。

文科省は子供と書くよう通達し、学習指導要領では六年生は「子供」と書くよう定め、東京都警察・消防等は概ね「子供」表記である。公務員は、法令を守るのが義務であるのに、かたくなに「子ども」を維持する足立区の姿勢は、何かに毒されているとしか思えない。子供は「子供」と書くべきだ。



金正恩は自分の政敵になるかもと、兄の正男を殺した、日本は殺さない。せぬま

剛

たいけんもんいんほりかわ

あきな

八十番歌

待賢門院堀河（源頼仲の娘堀川という。崇徳院の母の待賢門院に仕えた人）

ながからむ 心も知らず 黒髪の 乱れてけさは ものこそ思え

何となく恋の歌のような「末ながく、心が変わらないうか、お別れした朝の髪が乱れているように私の心も乱れています」と詠めますが、堀川という女性は崇徳院の母親の待賢門院に仕えて一心同体の人です、その母が崇徳院の為に良からぬ事をしている、うわさを立てられ、ついに出家します、仕える堀川も共に黒髪切り一緒に出家します。政治が歪んできたこの時代の悲劇、黒髪切つて、世の中にこんなことがあつていいのかと詠います。百人一首は恋の唄のようで、その真実は歴史を語り知らしめる

せぬま 剛

八十一番歌

後徳大臣左大臣（本名藤原定家のいところで藤原実定という）

ほととぎす 鳴きてる方を ながむれば ただ有明の 月ぞ残れる

「ほととぎす」とは中国の故事から「不如帰去」帰ることが出来ない過去の意です。「有明の月」とは、夜が明けてもまだ残っている月、巡り巡ってまた昇ってくる月ですね。二度と戻れない過去の栄華をふと思うけれど、夜明けの空に残る有明の月は、あと少しで地平線に沈んでしまおうと読めますが「月ぞ残れる」と又新しい時代、前のように華やかな平安の時代の月が昇って欲しいと詠んでいます。

平安の時代日本は戦後から、まだ日本は悪い国だと教え続けています。日本人は素晴らしいと世界の識者は絶賛します。日本人よ誇りを持とう。

せぬま 剛

あの名僧西行法師をしても国の乱れは悲しいものだと言う

せぬま 剛

八十六番歌 西行法師（二十三才で出家五十才から全国旅し家集「山家集」がある）
嘆けとて 月やはものを思はする かこちがほなる わが涙かな

西行法師は平安末期から鎌倉時代にかけての代表する歌人、出世の道を捨てて出家して政争を嘆きながらも、国の為に尽した人。この歌は、月にかこつけて世の中を満ちたり欠けたりするもので、今は悲しくて涙が出るが、いつの日かとの思いをこの歌に託している。

○平成の世も終わります。日本人の知恵で米国と同盟し、今日まで安全で平和に来ました。この同盟を反対と騒いでいた人達がまだ、国を思わず、何でも反対と言っているのが現実です。

八十七番歌 寂蓮法師（俗名藤原定長、三十代半ばで出家）

村雨の 露もまだ干ぬ まきの葉に 霧立ちのぼる 秋の夕暮

「村雨の」にわか雨が突然降りだしたような、天下の大事件が起きて「保元の乱」世の中が大いに、乱れてますが「露もまだ」その混乱を何とかしようとしていると、今度は更に「霧」が立ちこめ大問題が起き、先の見えない「秋の夕暮」となってしまいました。

日本国内が何となく不安定の中で安倍政権は、日本を安定した国にと憲法改正し、国民が安心して暮らせる日本にと言っているが、日本人自らがその事を意識しないであれば、改正は出来ない。

せぬま 剛

真に仕えてくれる人 友は有難いものですね

せぬま 剛

八十八番歌 皇嘉門院別当（崇徳院の皇后 聖子に仕えた女性）

難波江の 蘆のかりねの ひとよゆる 身を尽くしてや 恋ひわたるべき

「保元の乱」で追われた崇徳院の皇后に仕えた人の句で「かり根」が「仮り寝」「ひと夜」が「一と筋」に「身を尽くし」が「漣標」に「恋」を「乞ひ」というように、いく重にも掛詞が入って技巧をこらして、本音を分からぬよう詠っていると言います。昔難波江で繁栄していた、平安の世が刈取られてしまったが身を尽くして危険な事にも立向かわねばならないのでしょうか、と女性の身でありながら戦いを挑んでいたのですね。

八十九番歌 式子内親王（後白河院の第三皇女・国の平和を祈り続けた人）

玉の緒よ 絶えなば絶えね ながらへば 忍ぶることの 弱りもぞする

式子内親王は、体を壊し、病床から藤原定家にこの歌を見せたと「明月記」に書かれている、明月記とは藤原定家五十六年間の日々を記した日記です。何故定家に見せたのでしょうか、それは、思いを分かってくれると信じていたからでしょうね、自分の死を覚悟して、思いが分かる人に託したのでしよう。「このまま生き長らえば、耐え忍ぶ心も弱ってしまう、でも氣力のあるうちに私は祈ります。祈り続けて命が絶えるならば、絶えてもかまいません」と言っているのです、彼女は命に代えて平和を祈ります、壮絶な歌となっているのです。

自らの死より国を思う心 日本人の原点

せぬま 剛

レッツゴー通信ご愛読の皆様へ

新しい年号の五月十九日告示 五月二十六日投票

足立区議会の選挙が行われます。

ご案内しましたように、せぬま 剛は九期目の立候補を
させて頂きます。百人一首も、百番歌に近づいてまい
りましたが、五月から八月まで通信を休ませて頂き、
選挙に専念致します。

ご愛読各位に於かれましたは、意のあるところをお察し
下さり、ご支援変らずお願い申し上げ当選の栄を賜りた
く、伏してお頼み致します。

平成三十一年四月

せぬま

剛